

テーマ：貿易統計（2014年6月）
～引き続き弱い輸出～

発表日：2014年7月24日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
TEL：03-5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量			
		輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		アジア		アメリカ		EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
13	4月	▲ 8774	▲ 7889	3.8	9.4	▲ 3.0	0.2	▲ 11.8	▲ 2.2	2.5	▲ 8.6	7.3	3.2		
	5月	▲ 9913	▲ 7859	10.1	10.0	▲ 1.2	▲ 3.3	▲ 16.4	2.1	▲ 2.2	▲ 6.8	▲ 0.6	▲ 5.5		
	6月	▲ 1805	▲ 7056	7.4	11.7	▲ 5.1	▲ 6.4	▲ 9.4	▲ 4.0	▲ 5.0	▲ 2.9	0.2	▲ 7.5		
	7月	▲ 10325	▲ 9750	12.2	19.7	1.8	0.4	0.2	▲ 1.7	2.4	2.1	4.2	1.2		
	8月	▲ 9714	▲ 8955	14.6	16.2	1.9	0.9	▲ 1.2	0.4	▲ 1.9	▲ 2.2	▲ 0.6	▲ 2.5		
	9月	▲ 9432	▲ 11308	11.4	16.7	▲ 1.8	▲ 1.2	▲ 2.2	▲ 4.0	▲ 2.1	▲ 5.8	14.0	1.4		
	10月	▲ 11004	▲ 12034	18.6	26.3	4.4	5.3	8.0	2.0	6.4	▲ 2.0	6.0	3.3		
	11月	▲ 13011	▲ 13172	18.4	21.2	6.2	2.9	0.4	5.9	3.4	21.2	▲ 7.0	1.8		
	12月	▲ 13072	▲ 11897	15.3	24.8	2.5	▲ 4.6	5.4	2.2	4.7	1.1	16.9	1.8		
	14	1月	▲ 27950	▲ 17198	9.5	25.1	▲ 0.2	6.3	5.5	▲ 2.0	8.0	15.3	9.2	10.9	
		2月	▲ 8047	▲ 11470	9.8	9.0	5.4	▲ 1.0	8.2	5.0	▲ 0.5	16.0	8.5	▲ 2.9	
		3月	▲ 14507	▲ 16196	1.8	18.2	▲ 2.5	1.5	▲ 0.3	▲ 4.9	11.6	13.3	12.8	11.3	
4月		▲ 8149	▲ 8768	5.1	3.4	2.0	▲ 1.5	4.8	▲ 1.1	▲ 1.3	6.2	0.6	1.1		
5月		▲ 9108	▲ 8613	▲ 2.7	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 1.9	6.4	▲ 5.0	▲ 4.0	1.0	▲ 0.7	▲ 2.2		
6月		▲ 8222	▲ 10808	▲ 2.0	8.4	▲ 1.7	▲ 1.8	4.6	▲ 5.4	7.2	6.4	7.8	8.1		

(出所)財務省「貿易統計」

○引き続き弱い輸出

2014年6月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は8,222億円の赤字（コンセンサス：▲6,490億円、レンジ：▲9,319～▲4,400億円）となった。季節調整値でみると、輸出が前月比+1.9%、輸入は同+5.0%とともに増加したものの輸出の伸びが輸入の伸びを下回り、貿易収支は10,808億円の赤字と3ヶ月ぶりに拡大した。輸入が駆け込み需要の反動減の影響が薄らぐことなどを背景に増加する中、輸出の戻りは限定的なものとなった。

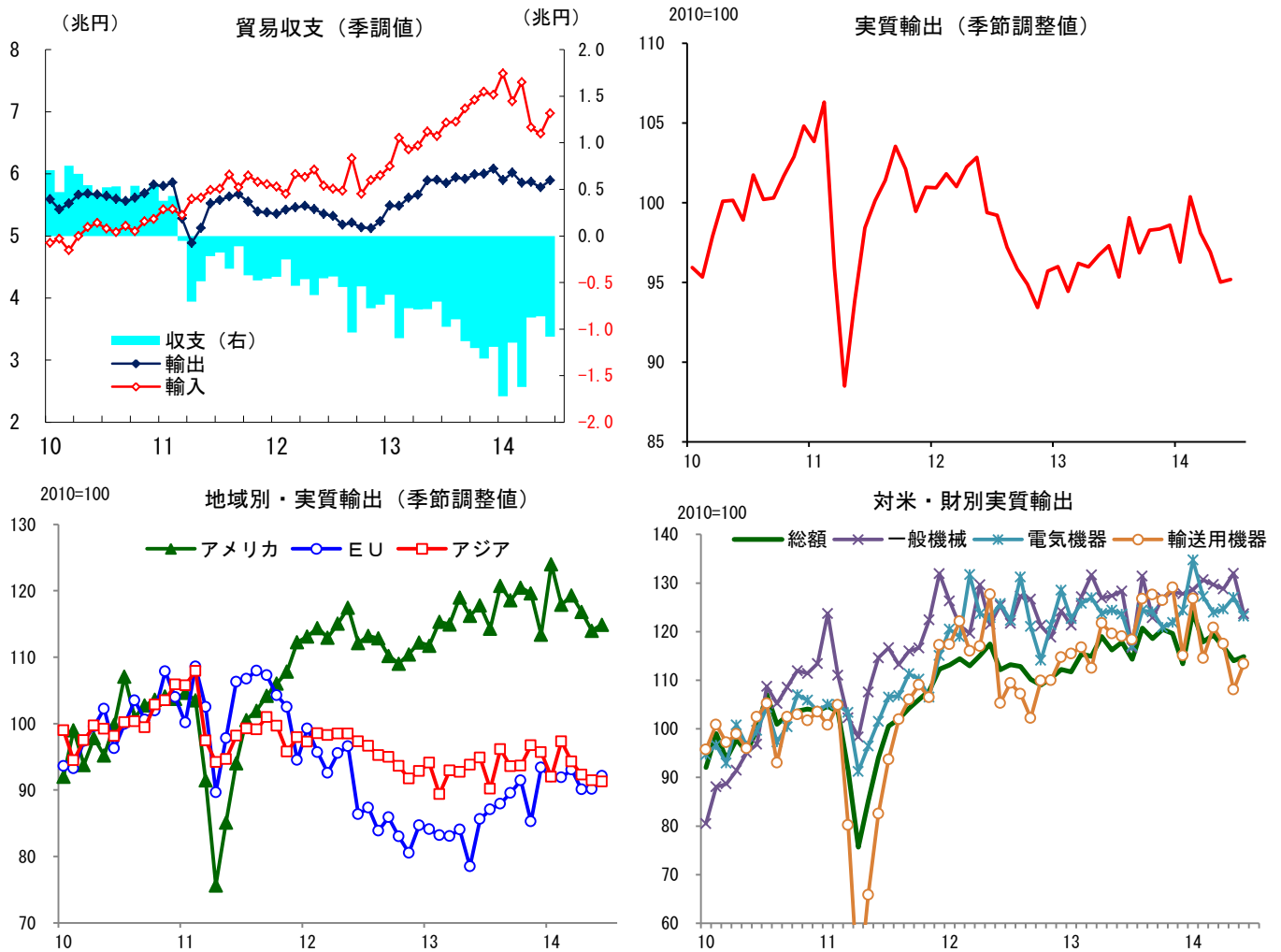
物価変動の影響を除いた6月の実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比+0.2%（5月：同▲2.0%）と3ヶ月ぶりに増加に転じた。もっとも、これまでの減少を踏まえれば戻りは弱く物足りない結果だ。この結果、4-6月期の実質輸出は前期比▲2.6%（1-3月期：同▲0.2%）と2四半期連続の減少である。4-6月期の輸出低迷は、米国向けとアジア向けの弱さが背景にある。米国向けは2014年入り後減少傾向での推移が続いている。米国向け（前期比▲4.3%）の低迷は、輸送用機器が減少傾向で推移していることが主因だ。5月分までの国内大手自動車メーカーの輸出向け生産台数をみると2013年12月以降前年比マイナスが続く一方、海外での現地生産は増加基調が続いている。海外生産による対応が増加することで、米国向け輸送用機器輸出の増加を抑制している可能性があるだろう。また、アジア向けは同▲3.0%と減少し、4-6月期輸出低迷の最大の要因となった。アジア・新興国の景気は依然力強さを欠いており輸出の低迷に繋がったとみられる。また、4-6月期実質輸入は前期比▲7.4%と大幅減少した。

○先行きの輸出は持ち直し基調を予想

先行きの輸出は、海外経済の持ち直しを背景に緩やかに増加に向かうとみている。米国は景気の回復がみられるものの、米国向けで大きな割合を占める輸送用機器は海外現地生産が進んでいるとみられ、輸出が思

うように増加していない。鉱工業指数をみると、輸送機械工業の生産能力指数は2014年1月に指数が大きく低下していることなどから、今後も以前ほどの増加は見込みづらい。しかし、米国の設備投資には回復の兆しがみえており、今後設備投資が持ち直してくる中で一般機械を中心とした輸出の増加が期待されよう。アジア新興国経済については、足元の低迷が輸出の足かせとなっているが、中国経済の底入れが確認されつつあることは明らかな材料だ。また、機械受注統計における外需は均してみれば増加基調で推移しており、今後一般機械輸出の増加が期待できよう。こうした動きを支えに先行きの輸出は緩やかな持ち直し基調に転じていくとみている。

なお、6月の経常収支（原数値）は、5ヶ月ぶりに赤字となる可能性が高いとみている。季節調整値については現時点で小幅黒字を見込んでいるものの、黒字を維持するかは微妙なところだ。



(※) 出所はすべて、財務省「貿易統計」。実質輸出の実質化、および季節調整は第一生命経済研究所。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。